

夜空の下で読みたい本

今年も残すところ、あと一か月になりました。だんだんと空気が冷たくなり、寒い夜が続いています。そんな寒い夜には、夜空を見上げてみませんか。そこには、美しい星々が夜空を彩っています。そこで今回は、夜空の下で読みたい本をご紹介します。

1冊目は、えびなみつる/絵 谷川俊太郎/文 『ほしにむすばれて』です。

主人公の少年、ぼくのおじいちゃんは、子どもの頃から星が大好きで、いつも夜空を見上げていました。おじいちゃんは、人生の大半を星とともに過ごしてきました。そんなおじいちゃんを見て育ったお母さんは、小さい頃から星の物語をたくさん読むようになりました。そして、そんなお母さんを見て育った僕も、おじいちゃんとお母さんの思いを受け継いでいきます。時代や世代が変わっても、星は変わらず美しく夜空に輝いています。星を中心に親子代々の絆を描いた感動の絵本です。

2冊目は、英和出版社書籍部/編 『夜空のおはなし』です。

人は昔から、夜空を見上げてきました。そして、見上げた夜空に輝く、月や星々を題材として、様々なお話を創りました。古くから伝えられている『ギリシャ神話』や『日本神話』の中には、星座の由来や月を司る神様が登場します。また物語では、宮澤賢治の『銀河鉄道の夜』やアントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの『星の王子さま』が有名です。しかし、その他にも世界には月や星々を題材とした数多くの神話や逸話、物語が存在します。この本は、数多く存在する神話や逸話、物語を美しく魅力的な夜空の写真と共に紹介しています。月や星、星座の知識がない人でも、楽しく読める1冊です。

3冊目は、美奈川護/著 『星降プラネタリウム』です。

故郷の村を捨て、東京で就職した渡久地昂に告げられた配属先は、希望とは全く違う閉館が囁かれるプラネタリウムでした。そこで、昂は先輩である星の魔女こと望月慧子のもと、プラネタリウムの解説員として、働くこととなります。個性豊かなプラネタリウムを愛する上司や同僚、利用者と出会い、交流することで昂は成長していきます。ついには、変ってしまった故郷から逃げ続けていた自分を認め、向き合うことを決めます。目をそらし続けていた自分の故郷・星降村で、昂を待ち受けるものとは…。プラネタリウムに魅せられた人々と一人の青年の成長を描いた物語です。

皆さんも、本を読みながら、夜空に瞬く星を見上げてみませんか。

図書館には、今回ご紹介した本以外にも星や天体に関する本が沢山あります。ぜひ図書館にお越しください。